

共生

黒木隆之 書

2015年4月

第15号

【発行】
平成27年4月1日発行
【発行人兼編集人】
伊東安男

第2回社会福祉法人経営者大会会長あいさつ《全文》

今こそ社会福祉法人の信頼を取り戻そう



鹿児島県社会福祉法人経営者協議会
会長 伊東安男

第2回経営者大会において頂き心から感謝申し上げます。

本日は全国経営者協議会の高岡会長様、鹿児島県保健福祉部松田部長様、それに県社会福祉協議会仮屋会長様のご出席をいただき心から感謝申し上げます。

さて、昨年から社会福祉をめぐる状況は厳しさを増しております。「内部留保金問題」に端を発し、社会福祉法人の公益性のあり方等につきましては、規制改革会議や社会福祉法人のあり方等に関する検討会等の場で議論されてきました。そして、今、社会保障審議会福祉部会で社会福祉制度の改革に向けた議論が進んでいます。

立教大学の柴田英昭教授は「月間福祉」の中で「社会福祉基礎構造改革以降、社会福祉事業には多様な主体が参入、特に営利企業の参入が著しいが、そもそも営利法人の主体をなす株式会社は、収益を最大化させて、株主に多くの利益を還元することがミッションであり、対象者の基本的人権を擁護することに力点が置かれるわけではない。また、株式会社は参入・撤退も自由であり撤退後には利用者がサービスから取りのこされる可能性もある。人権原理から考えれば、今後とも社会福祉事業の主体は当然、社会福祉法人が担うべきである。そのためにも、社会福祉法人は自ら改革を行うべきではないだろうか」と述べていらっしゃいます。

今回、介護報酬が2.27%引き下げる旨の決定がなされ、福祉事業に携わっている我々は事業が継続出来て行くのかどうかの瀬戸際に立たされている状態であります。しかし、一番苦しいこの時期を何とか乗り越えたいと社会福祉法人が手をたづさえてがんばって行かなければならないと思います。

鹿児島県の社会福祉法人経営者協議会は昭和59年に結成されました。これまで30数年の歩みの中で少しずつ組織も拡充して参りました。久木元初代会長からスタートし、2代目は新平会長、3代目は中村会長、4代目は徳永会長、5代目は松村会長、不肖私が6代目の会長になります。皆さん、それぞれボランティアで頑張ってくださいました。本来なら、今年の第1回の大会で表彰すべきでしたが、準備不足で今年になりましたこととお詫び申し上げます。

今大会は、これから全国経営者協議会高岡会長さんの基調報告に続き、巨人軍V9時代の名遊撃手であり、鹿児島県始良市出身の黒江透修(ゆきのぶ)選手の講演をいただきます。夜は交流会を予定しております。明日は、高齢・介護、障害、それに児童の3分科会に分かれての研修会を予定しております。

大会が成功裏に終わりますよう皆様のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

「第2回鹿児島県社会福祉法人経営者大会」の終了報告

～これからの社会福祉法人に求められるものは～



(3代目会長 中村現副会長)



(5代目会長 松村現副会長)



(大会宣言 柿添協議員)



(伊東会長 開会あいさつ)

(1日目)

2月17日(火)～18日(水)の2日間、鹿児島市内のホテルにおいて、158名の参加をいただき第2回社会福祉法人経営者大会を開催いたしました。

伊東経営者協議会会長の想いをこめた開会のあいさつの後、経営者協議会の5名の歴代会長へ感謝状と記念品が贈られました。また、松田県保健福祉部長及び仮屋県社会福祉協議会会長から来賓祝辞をいただくとともに、池畑県議会議長様からは祝辞のメッセージをいただきました。

柿添協議員が今大会の大会宣言(案)を朗読し、会場の大きな拍手のもと、大会宣言として承認されました。

基調講演は、全国社会福祉法人経営者協議会 高岡会長による「社会福祉法人を取り巻く現状と課題」について最新の情報に基づき講演がなされました。

次に記念講演は、鹿児島県始良市出身で元巨人軍、巨人V9の名遊撃手 黒江透修氏による「巨人V9とそれかの参謀学」と題して野球を通じて、チームワークの大切さやリーダーの役割など熱く語っていただきました。



(基調講演 高岡全国経営協会会長)



(記念講演 元巨人軍 黒江透修氏)

(2日目)

2日目は、県内外の専門の講師による3分科会に分かれて、経営協の「研修・広報部会」委員の座長の司会のもと、それぞれの分科会は、それぞれの分野の専門講師による講演、講師と参加者との意見交換等が行われました。

なお、1日目の夕方には、講師、来賓を含め参加者による「懇親会」も開催され、友好を深めるなど有意義なものとなりました。

県経営者大会は、社会福祉法人の皆様が一堂に会し、社会の要請に応える社会福祉の信頼を更に得るための方策等を研究・協議することで、共通認識を深めもって社会福祉法人の質の向上に資することを目的としています。

次回も、更に充実した大会になるよう努めていきます。



(第2分科会 障害分野)



(第1分科会 高齢・介護分野)



(第3分科会 児童分野)

第3回「福祉に対する私たちの思い」スピーチコンテストの終了報告

～福祉に携わる発表者から満杯の感動をいただく～

平成27年1月21日（水）かごしま県民交流センターにおいて、第3回「福祉に対する私たちの思い」スピーチコンテストを開催しました。

福祉の現場や地域で日夜活躍されている方々から、喜び、やりがい等を発表していただき、来場者やマスコミを通じての情報発信により県民の皆さんに福祉の現場を理解していただき、併せて、人材の確保にもつなげていきたいとの期待のもと、県内の福祉学科を持つ高校生や専門学校生約200人も参加いただきました。参加者は、発表内容に、熱心に聴き入っていました。



第3回社会福祉法人会計研修報告

～会計計基準移行の実務と課題処理に向けて～

平成26年度第3回社会福祉法人会計研修を平成27年1月26日（月）奄美市、2月2日鹿児島市内のホテルにおいて259名の参加のもとで開催いたしました。

今年4月1日からの全社会福祉法人の新会計基準への移行へ向け、基礎的知識、新会計基準に係る質疑、移行後の会計処理、新会計基準に基づく会計規程の作成ポイント、また、事前に提出された質疑応答を具体的に説明及び助言しました。会計研修終了後には、各施設の具体的事案に対する個別相談も実施いたしました。

今後とも、新会計基準等の質疑につきましては、「経営相談コーナー」の活用をお願いいたします。



共生社会の崩壊

社会福祉法人善き牧者会
聖園老人ホーム 施設長

川 涯 利 雄

昔、「学級崩壊」という言葉があった。子供たちが勝手に教室を動きまわり、先生の指導に従わず、教科書も出さない。注意すると先生にはむかって来る始末。授業どころではなく、気の弱い先生はノイローゼになったというニュースも報じられた。

そういう学級に車椅子の子供一人が転向してくると、学級はみるみる変化して、子供たちのなかに協力体制が生まれた。子供たちは車椅子を押し、障害児の世話を始め、クラスはその障害児を中心にまとまり、やわらいだやさしい空気が教室に流れはじめた。そういう報告や論文を当時、いくつも読むことができた。

障害を持つ人々の「癒す力」は実際に、想像を絶するものがある。子供を亡くしてしどろもどろになっていた私ども夫婦を立ち直らせてくれたのも障害を持つ友人たちであった。

この障害者に受難の時代があった。ヒトラーは、ホロ・コースト（ユダヤ人 600 万人大虐殺）用の施設をあちこちに建設する前に、自国の障害者およそ 20 万人を虐殺した。間もなく全世界を制覇する優秀なアーリア民族の国家にとって、障害者は厄介で邪魔な存在だとヒトラーは「わが闘争」に書く。当然、ドイツ国内の障害者が国民総数に占める比率は大きく減少した。しかし、しばらくすると障害者は急増し、その数値はすぐにもとに復したという。男女比についても同じ、戦争で男達が激減しても、まもなく男女比はもとに戻るといふ。つまり、障害者や男

女の比率は人為的に変えられないということ。いわば神の領域に属するもので、神は障害者と健康な人の共存をお望みであることがわかる。

健康な人間社会を維持するには赤ちゃん・障害者・若者・健常者・老人が一定の割合で存在することが必要である。ノーマルな社会は共存・共生を基本にするということである。

わが大学時代、日本は好景気に沸いていた。60 年安保闘争に学生が血眼になっていたころ、乙女たちは結婚するなら「家付き・カー付き、ばばあ抜き」がいいねと大っぴらに語り、この言葉は女性の賛同を得て当時の流行語にもなった。

こういう時代の到来を予見するように、数年前に書かれた深沢七郎の『橋山節考』はベストセラーになり、映画はカンヌ映画祭のグランプリを獲得して、「姥捨て」思想に警鐘を鳴らしたが、世の動きに歯止めはかからなかった。

個人主義は広がり、消費社会が発展し、エゴイズム社会への傾斜が強まり、「姥捨て」思想が現実のものになった。日本の共生社会はこうして崩壊して行き、限界集落ができた。

昭和 38 年に「高齢者福祉法」が制定、わが聖園老人ホームはこの年に設立された。

日本の高齢者不遇の時代は日本の経済発展とともに広がった。共生の思想を回復し、高齢者の孤独をどう救うか、時代の価値観をどう回転させるか？現代の課題は重い。

県社会福祉施設経営相談コーナー

県社会福祉施設経営相談コーナーでは、職員を配置し、文書、電話等により法人経営施設運営に関する相談を受け付けています。

秘密は厳守され相談は無料です。是非とも御利用してください。

- ◇専任指導員 1 名
- ◇兼任指導員（公認会計士）1 名
- ◇顧問弁護士（県経営協による委嘱。内容により弁護士会所定料金が必要）
- ◎連絡先：TEL 099-257-9885 FAX 099-250-9358
- ◎担当：寺田



保育部会研修終了報告

平成 26 年度保育部会研修を平成 27 年1月 29 日(木) 36 名参加のもと鹿児島市内のホテルで開催いたしました。

研修会では、まず、県県民生活局青少年男女共同参画課の山本専門員から「平成 27 年度に向けた県保育行政」の説明、次に、「子ども子育て支援新制度について」と題して、福岡市野方保育園園長篠原敬一氏が講演を行いました。

平成 27 年4月からの、子ども・子育て支援新制度の本格的スタートに向け各法人は熱心に聴き入り、講演後の意見交換も活発に行われました。



経営協に加入しましょう!!

私たち社会福祉法人が果たしている役割を広くアピールしながら、身近な社会福祉増進にさらに貢献できるよう、全国経営協に結集して会員の充実・強化に向けた政策提言を進めていきます。「経営者協議会」を大きな力にしていこう!

加入申込は県経営協事務局まで TEL 099-257-9885



事務局便り

【前号発行後の経営協の取組み】

月	日	行事名	場 所	主な内容等
27年1	21	第3回スピーチコンテスト	かこしま県民交流センター	発表・表彰等
1	26	第3回会計研修	(奄美市) 奄美サンプラザホテル	新会計基準
"	29	県経営協保育部会研修会	アーバンポートホテル鹿児島	子ども子育て支援新制度
2	2	第3回会計研修	(鹿児島市) 城山観光ホテル	新会計基準
"	5	研修・広報部会	県社会福祉センター	経営者大会分科会運営進行協議等
"	17~18	第1回社会福祉法人経営者大会	城山観光ホテル	大会宣言・講演・分科会等
"	26	九社連経営協役員会	福岡市	全国経営協組織見直し対応 東日本被災地派遣報告書作成
3	23	県との有識者懇談会	県社会福祉センター	指導監査等に関する意見交換会

【これからの経営協の取組み (予定を含む)】

月	日	行事名	場 所	主な内容等
27年4	14	監事監査	県社会福祉センター	監査
"	15	福祉指導連絡協議会	県社会福祉センター	事業実績・事業計画 (正副会長)
"	21	役員会	県社会福祉センター	総会提案議題等
5	8	定期総会 (午前)	城山観光ホテル	事業報告、決算、事業計画
"	8	経営者セミナー (午後)	城山観光ホテル	講師2名